

令和7年度

パピーナ荻窪天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

テーマを設定する

数を数えたり並べたりする遊びを楽しみながら、数のまとまりや順番に自然と気づく。友だちとの関わりの中で、考えたり工夫したりする楽しさを感じ取り、自分なりに数に親しむ意欲を育てていく。

活動 数を比べる

一対一対応の概念を理解する

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年5月20日
時 間	30 分
参加人数	人

環境をデザインする

●準備した物 積み木

探究活動を実践する

●活動内容

数を比べて組み合わせしてみる

数の比較の言葉「多い」「少ない」を理解する

●子どもたちの様子

カードを使って2つのものが同じ数かどうか尋ねると、「男の子と女の子が仲良しできたから同じ数だ！」と嬉しそうに気づいて教えてくれた。「傘と男の子は仲良しできないから同じ数じゃない！」と、同じ数ではないことも理解できていた。ホワイトボードに貼ったカードと同じ数の積み木を取ろうと、じっくり見比べて考える様子が見られた。「一緒に考えてみよう」と声をかけると、みんなで「な～かよし！」「な～かよし！」と声を合わせて、楽しく考えることができた。

●振り返りをふまえた気づき

担任より

ホワイトボードを使って数に着目した活動を行った。笠やリンゴの数等興味を持ち集中して取り組んでいた。積み木を使って個々で行うと、積み木遊びのようになってしまう姿が多々見られ、指示が通らない場面もあった。保育者や講師に褒められると、嬉しそうに活動に参加していた。積み木を使った場面では、保育者が一緒に数を数えたり「何個って言うてたかな？」と声を掛けることで集中して取り組むことができていた。保育者や講師の問い掛けには答える事ができており、数に対する理解はできている様だった。

講師より

「仲良しできた＝同じ数」「仲良しできない＝違う数」と、自分たちなりの言葉で数の意味をとらえている姿に、子どもたちの柔らかな発想が感じられた。積み木を使って数を合わせたり、みんなで「な～かよし！」と声を合わせて考えたりと、楽しみながら比べようとする姿が印象的だった。遊びや生活の中で、子どもたちが自分なりの視点で数に気づき、考えることを楽しめるようにしていきたい。



令和7年度

パピーナ荻窪天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： ことば

テーマを設定する

言葉の音やリズムを感じ取りながら、しりとりや音あそびを楽しみ、言葉のつながりに親しんでいく。安心できるやりとりの中で、自分らしく言葉を選んだり組み合わせたりする楽しさを広げ、表現する意欲を育てていく。

活動 音の数

いろいろな言葉の音の数を理解する

環境をデザインする

●準備した物 なし

活動スケジュール

5歳児クラス

日にち	令和7年5月20日	
時 間	45	分
参加人数	人	

探究活動を実践する

●活動内容

物・絵を見て発音して、音を数えてみる

三音の言葉を発表する

●子どもたちの様子

カードを見せると、「キリン」「3」、「なす」「2」、「えんぴつ」「4」、「ランドセル」「5」と、声に出しながら、音の数を確認することができた。1音の言葉を発表する場面では、「酢」「巣」「根」といった言葉を教えてくれる子がいた。3音の言葉では「ゴリラ」「とびら」「りんご」「ぶどう」「でんしゃ」「えほん」など、さまざまな語がきかれ、「4音のものも探してみたい!」という声が自然に上がっていた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

言葉の音の数だけ手を叩いたり、音の数を数えたりしたことでイメージが持てていたように感じた。言葉の文字数でのカウントは馴染みがある子が多かったが、講師の先生が「口を動かす数」と助言をくださったことで認識がえられている子もいた。ノートを使つての音の数だけ色を塗る工程は視覚からの認識が得られているようだった。その後もクラスで「4音の言葉を見つけよう」と遊びの中で取り入れていき、言葉遊びの幅を広げるきっかけになった。

講師より

「1音、3音、そして「4音も探してみたい!」という声があがるなど、音の数に注目しながら、言葉を見つけていくことを楽しむ姿があった。最初は声に出して数えながら確認していたが、「もっと探したい」「あれも数えてみよう」と、自分たちから意欲的に広げていく様子が見られた。一音の「酢」「巣」「根」などの言葉も出てきて、発想の豊かさや言葉への関心の深まりを感じた。身近な言葉をきっかけに、ことばを楽しめるような関わりを大切にしていきたい。